

技能実習生  
47都道府県プロフィール

北海道

# 水際対策緩和で受け入れ再開 外国人技能実習生が防犯学ぶ

NHKニュース 2022年6月28日

新型コロナの水際対策の緩和を受けて、外国人技能実習生の受け入れが再開される中、防犯対策などを学ぶ講習会がオホーツク海側の湧別町で行われました。

27日に行われた講習会には、5月にベトナムから入国したばかりの技能実習生20人が参加しました。

講習会では、講師役の警察官が外出するときには必ずパスポートか在留カードを携帯することを説明した上で、**パスポートを売買する犯罪が多発しているので、気をつけてほしい**と呼びかけました。

また、**自転車が走る場所**はベトナムと違って、道路の左側だということなど、国ごとのルールの違いについて説明しました。

町内で技能実習生の受け入れを担う団体によりますと、ことし3月に水際対策が緩和されて以降、実習生の数は増加傾向にあり、今回の講習会に参加した実習生も町内の**水産加工場**などで業務にあたるということです。



講習を受けた実習生のグエン・ティ・マイさんは「講習は勉強になりました。実習をがんばります」と話していました

# キャリアバンクと北海道が全国初の外国人材就労支援協定、コロナ禍帰国困難実習生の就労先確保

2021年9月3日 リアルエコノミー

- 人材紹介サービスのキャリアバンク（本社・札幌市中央区）と北海道は2日、外国人材の就労支援に関する連携協定を締結した。コロナ禍で外国人技能実習生などが帰国できず、**新たな就労先が必要となった場合**、両者が連携して就労先確保を支援する。**自治体が民間企業と組んで、外国人の就労支援をするのは全国でも初めて**。
- 道内には約1万3000人の外国人技能実習生がいるが、コロナ禍によって実習期間が修了しても帰国困難な状態になっている外国人が増えている。法務省出入国在留管理庁の新たな在留資格により、実習期間終了後も受け入れ機関で継続就労できるようになっているものの、コロナ禍の影響で受け入れ先の雇用環境が悪化、倒産するケースも出てきた。



（写真は、外国人材就労支援協定の締結式。左から道の鈴木直道知事、キャリアバンク佐藤良雄社長）

このため、**新たな就労先を探す技能実習生のニーズに応える必要がある**として、道は外国人就労に関する知見が豊富なキャリアバンクと連携協定を締結、就労支援を実施することにした。

# 技能実習生の「変形労働制」を認可——過酷でも稼げる 牡蠣とホタテの養殖

2021年10月31日 CyzoCulturePress

ホタテも牡蠣同様、変形労働制を取る事業者が多く「コロナの影響で新しい実習生が入ってこず、失踪した元実習生でもいいから、とにかく人が欲しいと道内のホタテ養殖業者からの問い合わせが殺到しました」

ベトナム出身のファン・ツ・レさん（34歳）は、高校卒業後、マレーシアに出稼ぎに行き、鶏の解体処理の仕事に就いた。そこで稼いだお金を元に、母国で携帯電話の修理会社を開いた。毎月3万5000円程度を稼いでいたが、友人から「3年で250万円は稼げる」と聞き、実習生として日本に行くことを決めた。

しかし、送り出し機関で4回面接を受け、すべて不合格。「どんな仕事でもいい」と送り出し機関に頼み、紹介されたのがホタテの養殖だった。「すでにたくさんの実習生が日本に行き、情報は出回っている。仙台より北は寒く、最低賃金も安く、人気がない」



北海道南西部の噴火湾。出航は3時半。ホタテ養殖の漁船には3人のベトナム人技能実習生。小さな稚貝を間引いて、網の大きなカゴに入れ替え、また沖に沈める。

レさんは、そんなベトナムでも「不人気職」のホタテ養殖の実習生として17年6月に来日。3年間の実習期間中に、道内の水産加工会社で働くベトナム人実習生との間に子どもができた。レさんは3年の実習を終え、20年10月に帰国。彼女との結婚式を済ませ、21年2月に特定技能外国人として再び来日し、ホタテの養殖作業に就く。